

## 施設紹介

## 日本心臓血圧研究振興会付属榊原記念病院

榊原 高之\*

## はじめに

榊原記念病院は1977年以来、新宿において救急病院として、とくに心筋梗塞を中心として、24時間診療体制を目標に努力している一市中心臓血管専門病院である。新宿副都心高層ビル街に隣接し、JR 新宿駅南口徒歩3分と交通の便は良いもの、なにぶん副都心の一角に近く、敷地の制約が強く、スペースは最大限に利用しつくしている。駐車場は病院車と救急車以外にはほとんど駐車不可能と

なっている。

## 組 織

当院の正式名称は、日本心臓血圧研究振興会付属榊原記念病院である。振興会は吉岡博人理事長のもとに、本部と研究施設が東京女子医大にあり、振興会の臨床施設となっている当院とは別の地にある。

創立者の榊原氏は、本病院の設立趣旨を次のように述べている。「……発作をおこした心筋梗塞患者は絶対に断らないで、最低限48時間までは治療することをモットーにし、日曜、祭日を問わず、夜間、昼間を問わず、満床でも収容治療するのである。他方、手術を必要とする心臓病患者や、難症の心臓病患者の治療と医学の進歩に資する事を目的とし……」この創立の趣旨は今も色濃く残っている。

## 外 来

何分、敷地の制約が強いので外来は、院内では救急外来のみを原則とし、一般外来はクリニック形式で、近くの高層ビル内に分散してある。正式

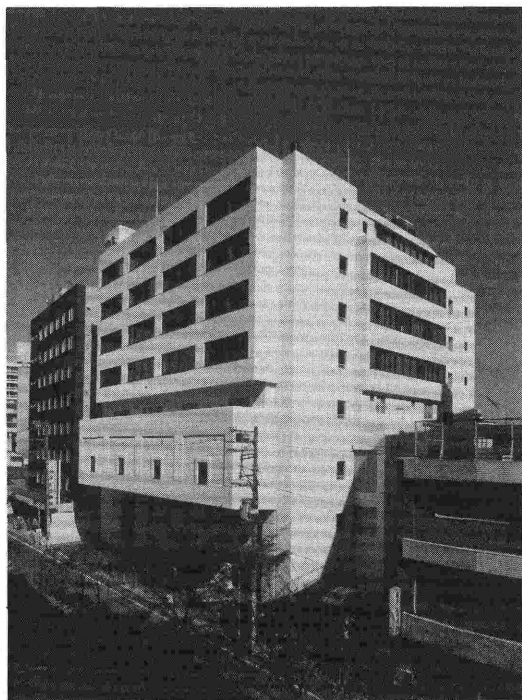


図-1 榊原記念病院全景

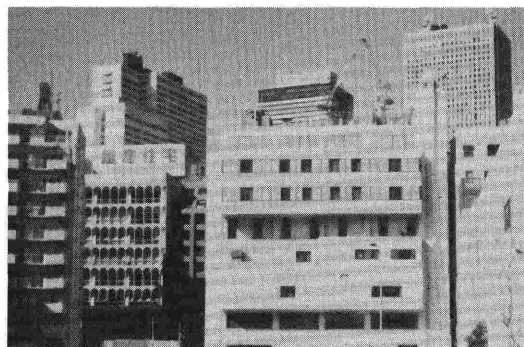


図-2 副都心を背景にした記念病院

\*榊原記念病院

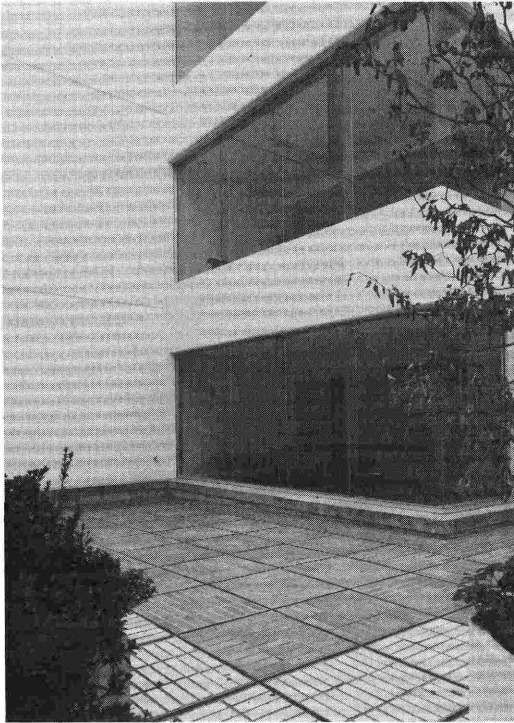


図-3 病院中庭

の外来は榊原記念クリニックとしてNSビルの4階にある。これらの場所相互には、マイクロバスが連絡しているが、徒歩圏内である。また、管理棟も近く隣接の貸しビルに移動する事になっており、スペースの創設に苦労している。

## 病 院

病院は四角い8階建てで周辺のオフィスビルと変わらぬが、中庭が四角い建物の中心にあるため、患者の意識が市街より中庭に向き、町中とは思えぬ落ち着いた感じを院内病棟に与えている。コンパクトであるので小回りが利き、狭いながらも救急、急変に機動性に富んだ対応をすることを続けている。

152床のベッドのうちICUが11床、CCUが10床になっている。

当院の職員は小船井良夫院長以下医師40名、看護婦110名、検査、薬局、事務など総計230人が働き、年間のカテーテルが1600例、心臓手術はほぼ350例、さらにペースメーカー植え込みが70例、救急外来患者はほぼ1200人、うち150人が急性心筋梗塞患者である。

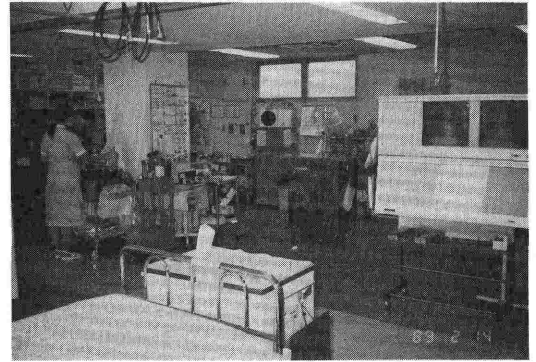


図-4 CCU

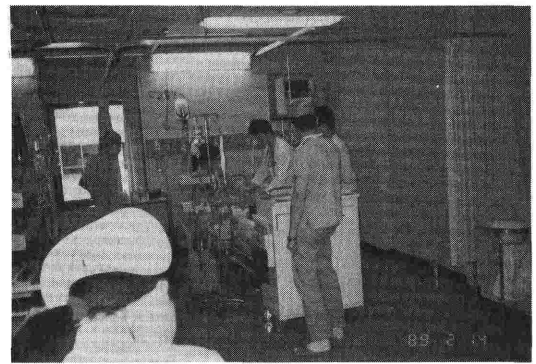


図-5 ICU

CCUは、東京都CCUネットワークの一翼をになって急性心筋梗塞の治療に当たっており、急性期PTCR、緊急PTCAになる症例も多い。心臓リハビリテーションも専門のスタッフにより広範に行われ、心筋梗塞後のみならず、心臓手術後の患者も多数参加している。最近、通常の運動療法のほかに、水泳を心機能測定に使う事も試みられるようになってきた。

医師は、循環器外科、内科、小児科にわかれ、さらに、常勤医と非常勤研修医にわかれる。研修医は、東京女子医大、北里医大、日本医大、医科歯科大などから来ていただく、いわゆるローテーターの先生方と、当院で募集している研修医とある。当院で募集しているのは、原則として1年、2年まで継続可能というものである。

各科に分かれてはいるが、小病院の特色を生かして、全医師がチームワークよろしく一丸となって治療にあたっている。

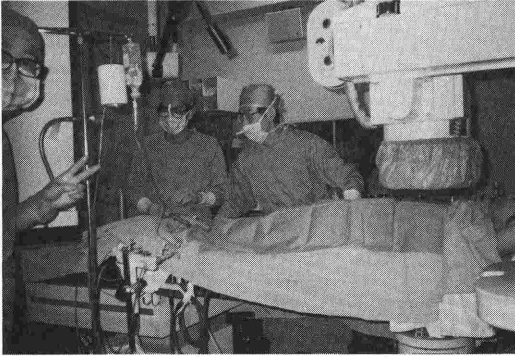


図-6 PTCR 中のカテ室

## 特 色

まず機能的で少人数で合理的に小回りのきく運営がされるよう工夫がなされている。

チーム医療の充実のため、当院では臨床検査技師に積極的に活動してもらっている。臨床検査技師には臨床工学士の資格もとってもらっている。これにより、人工心肺の回転、血液透析、呼吸管理などに、積極的にかかわってもらうほか、ICU、CCU テクニシアンとして、ME 器械のメンテナンス等をおこない、医師の指導管理のもとに、呼吸血行動態を把握しながら、治療の補助をしている。

開院時、本田技研の指導のもとに開発された、管理ボックスを使用し、カードックスを廃止、伝票、カルテ管理を一元化させた。病棟クランクが事務手続き、院内連絡、カルテ整理、物品管理を行っている。これにより看護婦の業務が、軽減され、本来の看護業務に専念できるようになった。またコンピュータの活用のために、迅速な現場で

の直接入力も可能になってきた。

退院後の患者治療は経過は前述のごとく建物が違い、患者の戸惑うこともあるが、治療上は循環器以外の様々な専門外来クリニックが近くにあり、有機的にまとまって、あい補いあって好都合である。

しかし、このようないはば、複数外来クリニック受診が常態であるような場合は、患者の医療情報をいかに迅速に正確に伝えるかが問題となり、我々も色々と試行錯誤中である。現在のところこれらの情報を一カ所に集中させて、そこへの各部署からのアクセスを考えるより、患者に総ての必要情報を持たせて移動させるほうが効率が良く有望のようである。

また、医療の本道である、予防医療のために、定期検診による健康管理も力を入れているが、特に会員制のウェルネスは「ユア・ドクターズ・システム」とよばれる体制をくみ、常在の医師が24時間、電話連絡による会員の相談を受け、適切なアドバイスを出し実行できるようになっている。

## おわりに

これからの医療は、コストパフォーマンスが本格的に問われる時代である。市中専門病院としては、成果の確認されている治療をいかに効率よく、潤沢に、また安価に提供出来るかが問われている。良質でスタンダードな医療を迅速に提供して、全医療体系の一角の責任を果たさなければならない。いかにこれらを適確に改善、発展させるかという、医療サービスの本質を見失うこと無く、我々も全員で地道な努力を今後とも続けたい。